



▲編集会議で企画や取材担当を決めます。  
◀毎号綿密なページ割表をもとに記事の作成を進めます。



▲左から、中楨さん・宇留賀さん・濱さん・横石さん・小林さん・二木区長

安曇野☆きりりびと  
Interview  
Vol.5

## 新聞を通じて、地域の絆づくり

真々部新聞編集委員 濱秀郎さん 宇留賀弘さん 中楨紀人さん 横石策夫さん 小林清一郎さん 三澤正史さん

顔の見える記事を目指して  
発行までに編集委員が顔を合わせるの2回。1回目の会議は、編集デスクの宇留賀さんを中心に企画と取材担当を決めます。その後、各担当が取材と記事の作成を進めていきます。この間、記事の校正やアイデアなどのメールが何

内容を中心に発行しています。紙面で各団体が行っている取り組みを知り、相乗効果を生み出すことで、近所同士の絆を強めることにつながれば。そんな願いを込めて真々部新聞を作成しています。

### おせっかいの里 ままべ

引越してきた人などに区への加入のお願いをする際、区に早く馴染んでもらえるよう真々部新聞を渡しています。その結果、真々部区の高い加入率につながっています。これからは「ほど良きおせっかいの里・ままべ」の顔として、区民に親んでもらえるよう頑張

とで、新たな発見と区民のつながりづくりのツールとしての役割を真々部新聞が担えればと願い、取り組んでいます。

「顔が見えること」を記事のモットーにしていますが、区民に写真の掲載を断られることもしばしばあります。しかし、取材で話をしているうちに信頼関係が生まれ、写真を撮らせてもらえることも多く嬉しく思います。公民館や各団体に活躍している人を知ること

紙面を通じた近所の絆づくり  
真々部新聞は区長の二木さんと6人の編集委員によって、公民館や育成会などの活動や、神社の豆知識、区内の事業所紹介などの



## 園庭で 農家と家庭 縁結び

10/26 有明あおぞら認定こども園 えんていマルシェ

降園時間に合わせてオープンするえんていマルシェが有明あおぞら認定こども園で開かれ、園庭に並べられた野菜やおにぎりなどを、帰り支度をした親子が楽しそうに買い求めています。

えんていマルシェは、地産地消や食農教育の推進を目的とした新たな取り組みで、「えんてい」は開催場所の「園庭」を表すとともに、地元農家と家庭との「縁」を結びたいとの願いも込められています。

お迎えに来た清水真知子さん（三郷明盛）は「慣れ親しんでいる場所で子どもと一緒にゆっくり買い物が出て、とても嬉しい。生産者の顔が見える旬の野菜が買え、子どもとの食事が楽しみ」と笑顔で話しました。

## 歩いて見つける安曇野の秋

10/29・30 安曇野APPLE HALLOWEEN

旧国鉄篠ノ井線廃線敷の三五山トンネル周辺で安曇野APPLE HALLOWEEN（JR 東日本長野支社主催）が行われ、紅葉した木々とカボチャでハロウィン色に染まる会場には、2日間でおおよそ1,500人が訪れました。

現地には、観光協会や地元の皆さんが特産物を扱うマルシェやワークショップなどのブースを出店。仮装した子ども連れが、リンゴにシールを貼ってジャックオランタンの製作や記念撮影を楽しみました。

トンネル内には、地元の子もたちがカボチャをくり抜いて作ったジャックオランタンが並び、親子で訪れた両角昌さん（明科中川手）は「トンネルにハロウィンの雰囲気が出ていて面白い」と話してくれました。



## 地域の暮らしに里山の恵みを

11/5 あづみの里山市

7回目となるあづみの里山市が開催され、事前申し込みのあった200人がお目当ての木材を求め賑わいを見せていました。

この催しは、里山資源を地域の暮らしにつなげようと「さとぶろ。」が企画。会場には里山で活動するさまざまなグループが、木材、薪、ジビエなどの展示・販売ブースを出店しました。中でも木材市は、倒木などで伐採され産業廃棄物として処分する予定だったナラやサクラなどが里山の恵みとして販売されており、来場者の注目を集めていました。

ストーブ用の薪を購入しようと家族で訪れた島田和昭さん（穂高）は「子どもと木工を楽しみながら、里山からの恵みを一緒に感じたい」と話してくれました。



Memo 真々部新聞は、インターネットでもご覧いただけます！

真々部新聞は、真々部公民館HPで毎号データ配信されています。区民の皆さんだけでなく、どなたでも読むことができます。平成26年発行の創刊号をはじめ、真々部区の歴史が詰まっています。ぜひご覧ください！

真々部公民館 HP ▶



創刊から9年目で50号を迎えた真々部新聞▶